

No. 04 山田明

Tran Van Minh



厳しい生活だから国を出ようと考えたわけではありません。

—アメリカで暮らすベトナムの人は多いですか？やはりベトナム戦争（※2）の影響でしょうか？

兄はアメリカに家族がいます。義姉と娘2人。兄はベトナム戦争が終わった1975年から8年間刑務所にいました。その後、アメリカ政府がベトナム人を難民として受け入れたんです。

—戦争当時のことをミンさんにお伺いしたいです。ミンさんとミンさんのお兄さんは軍隊にいたのですか？

当時、私は学生でしたが、軍隊に入りました。そのときに戦争が一番ひどかったですね。だから徴兵がありました。1969年でした。徴兵は本当は18歳からだけど、空軍の募集があって、空軍の方がいいと思ったから、17歳で入隊しました。パイロットじゃなくて、整備とかの地上部隊でした。

兄は警察官でした。警察の刑事課長。だから、戦後、8年間刑務所に入りました。父は民間人で軍隊には入っていませんでした。全員入るといってわけではないんです。うちは兄、私、弟だけ。当時は、男だけでなく女の子も軍隊に入りましたね。特に、公務員とか警察とかには女の子がたくさんいましたね。

—軍隊に入って、戦地に行ったんですか？

軍隊に入ったときには戦争は始まっていました。1975年4月まで。私は空軍の基地に勤務していたから直接戦場には行きませんでした。戦争では友達とか、軍隊の仲間とか、亡くなった人もいます

けど、まだ生きてる人もいます。私は軽くてすんだけど、怪我もしました。

—1975年に戦争が終わったときは何をしていましたか？

南ベトナムが負けちゃったから、それで捕まって、刑務所か、密林で重労働をしていました。密林の重労働は、2年くらい続きました。あちこち移動させられて、そのあと開放されました。それでふるさとに帰って農業をして、その後、1981年にベトナムを脱出しました。

—南ベトナムが負けて、北ベトナムによる統一国家が作られましたよね？

私たちは、南の人で戦争に直接かかわった人は刑務所か、密林で重労働させられました。子供たちも学校に行かせてもらえませんでした。家の没収とか、財産とかも没収されたんですね。みんな厳しい生活だった。密林じゃないけど、新経済地域というのを森の中に作って、町に住んでいる人をそこに送って、そこで生活させていました。私はまだ若くて24歳くらいでした。

ベトナムを脱出

—国を出ようと決めたのはいつ頃ですか？

厳しい生活だから国を出ようと考えたわけではありません。でも、政治的に不安定で、釈放されてもまたいつ捕まるか不安でした。私だけじゃなく、旧軍人たちはみんな心配していました。だから、

ヤマダ アキラ

ベトナム名はトラン・バン・ミン。1952年生まれ。ベトナム南部のベンチェ省出身。ベトナム戦争終結後の1981年、ベトナムを船で脱出。脱出後、5日目にイギリスのタンカーに救出され日本へ。滋賀県の天理教日野ベトナム難民施設で2年間生活した後、品川の国際救援センターで3ヶ月間日本語を学ぶ。その後、浜松の自動車部品会社で働くようになり、浜松での生活が始まる。現在、静岡県ベトナム人協会代表として、同胞からの相談を受けたり子供たちの教育に力を入れたりしている。

どうしても国から脱出したいと考えていました。

脱出したのは1981年です。その2年くらい前から友達と考えていました。そのときは、田舎のサトウキビを買って砂糖を作って売っていました。難しかったけど、そうやってお金を貯めて、船を作って脱出する計画を2年くらいしていました。捕まったらもう殺されるしかないと思っていました。

—脱出したときには、ミンさんのご家族はどうされたんですか？残ったんですか？

はい。父と母、兄弟みんな残りました。本当は弟と妹二人も一緒に脱出したんです。でも脱出に失敗して、妹二人は残ることになったんです。

私が脱出した後は、父が公安警察から呼び出しがかかって父も二ヶ月くらい取り調べを受けました。でも、父は「息子ももう社会人になったから、自分はあんまり関係ない。息子の行動はわからない」と言っていたんですね。その後、父は手紙で私に、「お前はベトナムに帰らないほうがいい。捕まったら殺される」と言わせてくれました。

—最初は脱出に失敗したんですか？

そうです、一回目は。脱出は南の方のメコン川の支流から小さな船で出ました。しかし、小さい川から海に出て、半日くらいで台風にあっつて、またベトナムの海岸に戻ってしまいました。二日間、ベトナム中部地方まで流されて。それで、朝4時頃かな、再出発しないとイケないから海岸を見に行ったんだけど、まだ台

ベトナムでの生活

—ミンさんの子供の頃についてお聞かせください

1952年生まれて、ベトナム南のベンチェ省（※1）出身です。小さい頃はとっても平和なところでした。両親は農業をしていました。田んぼじゃなくて、ミカンやヤシ、ココナッツの畑。手伝いをよくしていましたね。ベトナムの子供たちは、親の手伝いをします。特に、田舎ではね。みんな、手伝いしています。

—ご兄弟は何人いたんですか？

兄弟は8人です。私は三番目。三番目といっても、ベトナム人の言う三番目は二人目のことで、第一子が二番目になります。だから、私は二番目に生まれたけど、ベトナムでは三番目になるんです。上は兄で、今、アメリカにいます。それで私。次は妹、弟、その弟は今浜松に住んでいます。次は妹、妹、と続いて、弟。その弟はもう亡くなりました。本当はもう一人、姉がいたけど、小さい頃に亡くなっています。

—ミンさんの弟さんが浜松にいらっしやるのは知りませんでした。

知りません？（笑）。仲良いですよ。今、弟はベトナムに行っています。兄もアメリカからベトナムへ一時帰国しています。30何年も会っていないから。兄はアメリカで生活しています。私も10数年くらい前にアメリカに2回渡りました。父もまだ生きてるときだったので、兄と父に会いました。

風だからとっても高い波で、船の操作の人が、危ないからやっぱり行けないと。そう言われたので、一緒に船に乗った仲間ほとんどベトナムに残りました。私の家族と友だちの家族など最初は64人でしたが、60人は船を降りました。妹2人も降りました。

それで、私たち4人だけ船に残って、私と弟と他の二人だけでも一回台風の中を出発しました。本当は、船をもとの港に戻したかったんですけどね・・・。

最初、64人のときは、マレーシアの方に向かいました。マレーシアが一番近くて自由の国だと思っていました。向こうには難民キャンプもありました。だから南の方へ向かったけど、半日で台風にあっつて船はどうしても行けない。でも、台風のとときは、ベトナム政府の船はあんまり活動しない。台風が通過するのを待ってたら、もう遅いと思って4人で再出発しました。

—台風の中、4人でどこに行こうと思いましたが？

どこへ…。そのときは、ベトナム中部に流されていたから、マレーシアじゃなくて、フィリピンへ向かいました。羅針盤もなくて、無い無いづくし。でも私たちは、学生のようにちよつとポータイスカウトの経験があるから、布に棒を縛って、布の方向を見て、風を見て、フィリピンの方へ行ってるって考えて。燃料はあったけど、潮の流れや船の帆を使ったり、風に任せたりしてたね。羅針盤もない。わからないから怖くない。不安はありません。でも友達には風向きがわかるから、